

ATHLETIC TRAINER,

HEALTH FITNESS
INSTRUCTOR

保健医療学部 付帯教育（保健医療学部の学生のみ履修可）

アスレティックトレーナー(AT)コース
健康運動実践指導者(HFI)コース

カリキュラム（付帯教育）

スポーツを楽しみ、健康づくりに励む人やアスリートを支えられるスペシャリストに！

保健医療学部では、アスリートの競技活動をサポートする「アスレティックトレーナー（AT）」や、人々の健康づくりを運動を通じてサポートする「健康運動実践指導者（HFI）」の2種類の付帯教育コースを設置しています。鍼灸師・柔道整復師の国家資格に加えることで、より幅広いフィールドでの機会を得ることができます。

	1年次	2年次	3年次	4年次
所属学科	鍼灸学科・柔道整復学科 カリキュラム			
+				
	見学実習を通して役割を学ぶ	基礎を学ぶ	専門知識と技術を学ぶ	応用力を身につける
アスレティック トレーナー コース	現場実習Ⅰ スポーツ組織論 アスレティックトレーナーの役割 スポーツ指導論	スポーツ医学総論 身体の検査・測定と評価 スポーツ心理学総論 トレーニング科学総論 現場実習Ⅱ・Ⅲ 予防とコンディショニングⅠ	予防とコンディショニングⅡ 運動生理学 アスレティックリハビリテーションⅠ・Ⅱ スポーツ・バイオメカニクス スポーツ外傷・障害の基礎知識 健康管理とスポーツ医学 現場実習Ⅳ・Ⅴ 健康運動実践指導者 認定試験受験予定(3年次)	スポーツ心理学 予防とコンディショニングⅢ アスレティックリハビリテーションⅢ スポーツ栄養学 トレーニング科学 アスレティックトレーナー スポーツプログラマー 検定試験受験予定(4年次)
健康運動 実践指導者 コース		スポーツ心理学総論 トレーニング科学総論 エアロビック運動の実践Ⅰ スポーツ医学総論 身体検査測定と評価 トレーニングの理論と実際 健康づくりと運動プログラム	エアロビック運動の実践Ⅱ 運動生理学 健康管理とスポーツ医学 予防とコンディショニングⅡ 健康運動実践指導者 認定試験受験予定(3年次)	

※授業のほかに日本赤十字社 救急法救急員講習会を受講する必要があります。

誰もが安心して健康増進を行えるように、適切なケアのできる専門家が求められています

アスレティックトレーナー（AT）は、スポーツ現場において競技者がケガをした際、応急処置やアスレティックリハビリテーション、コンディショニングなどを行う、スポーツ現場と医療のパイプ役となる存在です。そのサポートを行うにはスポーツの知識だけでなく医療的な知識も要します。また、こうしたケガが起きた後の医療的なサポートだけでなく、ケガが起こる前の予防のためのトレーニングや教育を行うのもATの仕事です。近年ではスポーツ界に限らず、高齢者や一般患者に向けた介護予防の為に運動の指導を担うなど活躍の場はますます広がりをみせています。

国内で活躍しているアスレティックトレーナー（AT）の多くは医療系国家資格保持者です

アスリートをサポートする現場で仕事を行う際、医療行為を行える資格を持っていることは大きな強みとなります。そのためスポーツの現場で活躍しているATの多くは、医療系の国家資格を保持しています。本学では鍼灸師・柔道整復師の資格取得を目指しながら、本コースを履修することにより、スポーツ現場での活躍の可能性を高めることが出来ます。



学業上の負担を克服して、難関とされるスポーツ関連資格を取得できれば、新しいフィールドでの活躍が可能です

本コースは、保健医療学部（鍼灸学科、柔道整復学科）に所属する学生が選択できるコースです。付帯教育では、各学科で定められている卒業に必要な単位にプラスして必要な科目を履修することになります。授業及び実習は平日の学科の授業の後や土曜日の他、休み期間にも実施される場合もあるため、学業の負担も増加します。本コースの選択にあたっては、十分に検討したうえで履修モデルに従って科目を選択してください。

取得を目指す資格

■ アスレティックトレーナーコース

- (公財)日本スポーツ協会 公認アスレティックトレーナー 受験資格
- (公財)日本スポーツ協会 公認スポーツプログラマー 受験資格
- (公財)日本スポーツ協会 公認スポーツリーダー
- (公財)健康・体力づくり事業財団 健康運動実践指導者 受験資格
- 日本赤十字社 赤十字救急法救急員

■ 健康運動実践指導者コース

- (公財)健康・体力づくり事業財団 健康運動実践指導者 受験資格
- 日本赤十字社 赤十字救急法救急員

期待されるフィールドや進路（アスレティックトレーナーの活躍の場）

■ 医療分野

医療機関勤務または、開業してスポーツドクターと連携、協力し競技者の健康管理、スポーツ外傷・障害の予防、救急処置など

■ スポーツ分野

プロのスポーツチームや個人選手をサポートなど

■ 学校体育

大学や高校の部活動の現場など

■ 企業・地域

トレーナー派遣会社、フィットネスクラブ、地域スポーツの現場など

在学学生からのメッセージ



故障やケガで悔しい思いをする人を減らしたい

中高と野球部で、ひじの疲労骨折を経験。ケガの予防がいかに大切かを思い知り、アスレティックトレーナー（AT）の資格取得を目指しています。授業では、例えば「野球で足を捻挫」といった課題を与えられ、グループでその対処について議論。学んだ理論を踏まえた上で、個々のケースについて考える力が付きました。実際にトレーナーとして活躍されている先生の指導も受けられ、内容はとても実践的です。ケガをさせない、治療後も無理なく競技に復帰させられる専門スキルを身に付け、将来は、整骨院で治療するのか、スポーツの現場でトレーナーに就くのか、幅広く学んで進む道を探っていきます。

保健医療学部 柔道整復学科 4年 堀江 剛瑠
神奈川県立相模原弥栄高等学校(神奈川県) 出身